

授業科目名 <英訳>	日本史II Japanese History II		担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 西山 良平			
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	歴史・文明(基礎)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義
開講年度・ 開講期	2016・後期	曜時限	月2	配当学年	全回生	対象学生	全学向
[授業の概要・目的]							
<p>平安京遷都と中・近世の京都</p> <p>平安京・京都の歴史的発展を日本の都市史の上に位置づけ、現在の京都における都市問題・都市環境の解決に示唆をうることを目的とする。平安京遷都から始め、近世京都の成立まで論じるのは、現在の京都の大枠が近世社会に決定されるからである。その中で西暦1000年前後に画期があることを強調し、都市社会の基底の「町」に焦点をすえ、権力者との関係に留意する。 本授業は、文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」(京都学教育プログラム)における「まなびよし」として開講されるものである。</p>							
[到達目標]							
日本の平安時代から近世社会の成立までの正確で幅広い知識を獲得するとともに、文献史料の原典を自分の力で読解し、新しい情報を発見して、歴史像を組み立てるための技術を身につける。							
[授業計画と内容]							
<p>平安京・中近世京都は平安遷都以来、1000年以上にわたり、都市であり、かつ日本の首都であり続けたため、日本の歴史・文化の動向を直接に反映する。平安京・中近世京都を素材に、日本の平安時代から中近世までの歴史の展開を考察する。最初に平安京遷都の経過を検証し、初期平安京の構造を理念と実際の両面から説明する。つぎに、西暦1000年前後の平安京の構造変化を多面的に考察し、院政期の開発・再開発を都市住人と権門の両面から解明する。さらに、鎌倉・室町期の王都(嵯峨・室町殿など)の特色を論じ、「町」の変遷を分析する。あわせて、院政・鎌倉期の平泉や鎌倉のあり方を説明する。最後に、戦国時代から近世京都の成立を織田信長や豊臣秀吉の動向から分析する。平安京・中近世京都の都市社会や住人に焦点をあて、文献史料のほか、できるだけビジュアルにするために、発掘調査のデータや絵画史料を随時活用する。自由参加形式で1～2回、現地を見学する予定である。</p>							
<ol style="list-style-type: none"> 1 平安京遷都(2回) 2 初期平安京の構造(2回) 3 平安京の変貌(3回) 4 院政期の開発と再開発(3回) 付録 平泉・中世鎌倉の特色 5 鎌倉・室町期の王都と「町」の発展(2回) 6 近世京都の成立(2回) 							
[履修要件]							
特になし							
----- 日本史II(2)へ続く -----							

日本史II(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

定期試験にて成績評価する。持ち込みは一切なし。

[教科書]

使用しない
授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

西山・鈴木編 『恒久の都 平安京』 (吉川弘文館) ISBN:978-4-642-06293-0

鋤柄俊夫 『中世京都の軌跡』 (雄山閣) ISBN:978-4-639-02049-3

西山・鈴木編は、2010年、2940円

鋤柄著は、2009年、2940円

[授業外学習(予習・復習)等]

授業の進行はシラバスに記載の通りであるので、授業の進行を確認の上、各回の授業内容を想定し、予習をすることが望ましい。

[その他(オフィスアワー等)]

定期試験の採点は厳格・厳正に行なう。